

14時30分解禁

百貨店を遊ぼう!

平成22年8月 全国百貨店売上高概況

平成22年9月17日

I. 概況

1. 売上高総額	4,346億円余
2. 前年同月比	-3.2% (店舗数調整後/30か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	92社 263店 (平成22年7月対比±0店)
4. 総店舗面積	6,494,278㎡ (前年同月比:-2.5%)
5. 総従業員数	94,130人 (前年同月比:-7.3%)
6. 3か月移動平均値	1-3月 -4.9%、2-4月 -4.2%、3-5月 -3.1%、 4-6月 -4.0%、5-7月 -3.1%、6-8月 -3.5%

[参考] 平成21年8月の売上高増減率は-8.8% (店舗数調整後)

【8月売上の特徴】

30か月連続の前年同月比マイナスとなった。

8月は、観測史上最高を記録した猛暑の影響により、ファッションを中心に秋物商材の動きが鈍かったが、その一方で、UV対策アイテムや盛夏物セール品の需要が活性化し、売上を下支えする要素となった。また、急激な円高・株安傾向が進む中、景気の先行き懸念や逆資産効果の影響で、宝飾品や輸入雑貨など高額品が低調に推移したこともあり、最終的には、ほぼ前年並みに回復した前月(-1.4%)から、減少幅が若干広がる結果となった。

具体的な動向としては、前年比で土曜日が一日減少したこと、高齢顧客の多い店舗では猛暑が集客に影響したこと、一部店舗で改装工事による売場面積の縮小が見られたことなどマイナス要素がある一方、夏休み期間中のファミリー向け催事や旧盆の帰省土産などが好調に推移したこと、家庭回帰志向を背景に食器やキッチン用品などが引き続き伸びを示している(その他家庭用品/+2.4%)こと、急伸基調にある外国人売上は円高の影響を受けながらも、依然二桁増(+16.5%/10か月連続プラス)で推移していること、などのプラス要素が報告されている。

【要因】

(1) 天候：気象庁発表「8月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇ 全国的に気温がかなり高く、北・東・西日本では1946年の統計開始以来最も高かった。また、北日本太平洋側と東・西日本では、太平洋高気圧に覆われる日が続き、月降水量が少なく、月間日照時間は多かった。

(2) 営業日数増減 30.6日(前年同月比-0.1日)

(3) 土・日・祝日の合計 9日(土曜日1日減)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)

①増加した：57店、②変化なし：27店、③減少した：52店、④不明：44店

(5) 8月歳時記(旧暦お盆、夏休み、夏祭り)の売上(同上)

①増加した：16店、②変化なし：55店、③減少した：33店、④不明：76店

(6) 翌月売上見通し(回答店舗数で見る傾向値)

①増加する：15店、②変化なし：63店、③減少する：48店、④不明：54店

全国百貨店 売上高速報 2010年08月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	434,667,549	100.0	-3.2 (-4.9)
10都市	280,111,328	64.4	-2.6 (-4.4)
札幌	11,401,941	2.6	-0.8 (-9.5)
仙台	5,672,817	1.3	-7.9
東京	103,394,574	23.8	-3.4
横浜	24,619,943	5.7	-2.7
名古屋	26,471,100	6.1	6.0
京都	18,201,829	4.2	-4.5
大阪	54,380,297	12.5	-3.1 (-9.7)
神戸	12,685,584	2.9	-2.0
広島	10,791,909	2.5	-6.1
福岡	12,491,334	2.9	-4.5
10都市以外の地区	154,556,221	35.6	-4.4 (-5.8)
北海道	2,585,963	0.6	-1.4 (-10.1)
東北	9,021,861	2.1	-5.7
関東	71,580,231	16.5	-3.1 (-5.5)
中部	11,916,995	2.7	-6.9 (-9.1)
近畿	15,335,659	3.5	-4.7
中国	11,157,761	2.6	-5.5
四国	7,847,092	1.8	-6.5
九州	25,110,659	5.8	-4.9

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	434,667,549	100.0	-3.2 (-4.9)
紳士服・洋品	22,550,795	5.2	-3.5 (-5.4)
婦人服・洋品	87,984,476	20.2	-4.6 (-6.2)
子供服・洋品	8,502,281	2.0	-7.0 (-8.1)
その他衣料品	11,968,356	2.8	-10.5 (-12.1)
衣 料 品	131,005,908	30.1	-5.2 (-6.7)
身のまわり品	53,226,073	12.2	-3.6 (-5.8)
化粧品	25,760,895	5.9	-1.5 (-2.5)
美術・宝飾・貴金属	19,289,566	4.4	-7.1 (-10.8)
その他雑貨	19,563,280	4.5	-6.7 (-9.8)
雑 貨	64,613,741	14.9	-4.9 (-7.3)
家 具	6,844,901	1.6	-8.9 (-10.0)
家 電	1,415,896	0.3	-18.2 (-19.8)
その他家庭用品	15,271,826	3.5	2.4 (0.9)
家 庭 用 品	23,532,623	5.4	-2.6 (-4.0)
生 鮮 食 品	28,415,883	6.5	-2.8 (-3.5)
菓 子	36,563,284	8.4	-1.9 (-2.7)
惣 菜	27,625,645	6.4	-2.5 (-3.0)
その他食料品	37,219,823	8.6	-1.6 (-3.5)
食 料 品	129,824,635	29.9	-2.1 (-3.2)
食 堂 喫 茶	16,413,484	3.8	-1.9 (-3.4)
サ ー ビ ス	5,825,863	1.3	2.3 (1.0)
そ の 他	10,225,222	2.4	16.9 (16.5)
商 品 券	16,216,291	3.7	4.0 (3.2)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | | |
|------------------|-------|------------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | -2.6% | (店舗数調整後／30か月連続マイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -4.4% | (〃 ／38か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	-2.6	-1.7	30か月連続マイナス
札幌	-0.8	0.0	6か月連続マイナス
仙台	-7.9	-0.1	28か月連続マイナス
東京	-3.4	-0.8	30か月連続マイナス
横浜	-2.7	-0.2	3か月連続マイナス
名古屋	6.0	0.3	33か月ぶりプラス
京都	-4.5	-0.2	3か月連続マイナス
大阪	-3.1	-0.4	2か月ぶりマイナス
神戸	-2.0	-0.1	2か月ぶりマイナス
広島	-6.1	-0.2	30か月連続マイナス
福岡	-4.5	-0.1	25か月連続マイナス
10都市以外の地区	-4.4	-1.6	38か月連続マイナス
北海道	-1.4	0.0	15か月ぶりマイナス*
東北	-5.7	-0.1	29か月連続マイナス*
関東	-3.1	-0.5	38か月連続マイナス
中部	-6.9	-0.2	29か月連続マイナス
近畿	-4.7	-0.2	29か月連続マイナス
中国	-5.5	-0.1	27か月連続マイナス*
四国	-6.5	-0.1	38か月連続マイナス
九州	-4.9	-0.3	36か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行したため(2005年までは6大都市)、連続性の観点から2007年1月からのトレンドとした。

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目では、2か月ぶりに全品目がマイナスとなった。また、その他家庭用品が2か月連続でプラスとなり、美術・宝飾・貴金属、家具、惣菜が先月より改善する動きとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-3.2	—	30か月連続マイナス
紳士服・洋品	-3.5	-0.2	29か月連続マイナス
婦人服・洋品	-4.6	-1.0	38か月連続マイナス
子供服・洋品	-7.0	-0.1	24か月連続マイナス
その他衣料品	-10.5	-0.3	30か月連続マイナス
衣料品	-5.2	-1.6	38か月連続マイナス
身のまわり品	-3.6	-0.4	36か月連続マイナス
化粧品	-1.5	-0.1	21か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-7.1	-0.3	42か月連続マイナス*
その他雑貨	-6.7	-0.3	33か月連続マイナス*
雑貨	-4.9	-0.7	30か月連続マイナス
家具	-8.9	-0.1	33か月連続マイナス
家電	-18.2	-0.1	2か月連続マイナス
その他家庭用品	2.4	0.1	2か月連続プラス
家庭用品	-2.6	-0.1	5か月連続マイナス
生鮮食品	-2.8	-0.2	2か月ぶりマイナス*
菓子	-1.9	-0.2	2か月ぶりマイナス*
惣菜	-2.5	-0.2	27か月連続マイナス*
その他食料品	-1.6	-0.1	2か月ぶりマイナス*
食料品	-2.1	-0.6	2か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-1.9	-0.1	25か月連続マイナス
サービス	2.3	0.0	3か月ぶりプラス
その他	16.9	0.3	5か月連続プラス
商品券	4.0	0.1	10か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

平成22年8月 東京地区百貨店売上高概況

平成22年9月17日

I. 概 況

1. 売上高総額	1,033億円余
2. 前年同月比	-3.4% (30か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-4.4%(87.5%) : 非店頭+3.9%(12.5%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	14社 27店 (平成22年7月対比±0店)
5. 総店舗面積	930,453㎡ (前年同月比:-1.8%)
6. 総従業員数	20,954人 (前年同月比:0.0%)
7. 3か月移動平均値	1-3月 -6.3%、2-4月 -5.4%、3-5月 -4.0%、 4-6月 -4.1%、5-7月 -3.0%、6-8月 -3.5%

[参考] 平成21年8月の売上高増減率は-10.3% (店舗数調整後)

【8月売上の特徴】

- (1) 都内各店の入店客数は、過半の店で前年をクリアし賑わいを見せた。この背景には、夏休み期間中の子供向けイベントや趣向を凝らした文化催事など、各店例年以上に集客施策の展開を強化したことがある。
- (2) 東京地区でも全国同様に盛夏商材の活況が売上を下支えする傾向を見せたが、セール比率の上昇によって客単価が下がる結果となり、入店客数は増加しているものの売上総額では前年実績に届かなかった。
- (3) 売上好調アイテムとしては、雑貨ではUV化粧品、日傘、帽子、サングラス、婦人衣料では、カットソー、ブラウス、ワンピースなどがあるほか、水着や浴衣もよく動いた。
- (4) 8月の特徴では、店頭売上が減少した一方で、外商や店外催事などが健闘したことで、非店頭売上が4%近い伸びを示している。
- (5) 屋上ビアガーデンは、猛暑効果で昨年以上に活況であった。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
 - ①増加した: 10店、②変化なし: 3店、③減少した: 6店、④不明: 3店
- (3) 8月歳時記 (旧暦お盆、夏休み、夏祭り) の売上 (同上)
 - ①増加した: 1店、②変化なし: 8店、③減少した: 4店、④不明: 9店
- (4) 翌月上見通し (回答店舗数で見る傾向値)
 - ①増加する: 4店、②変化なし: 11店、③減少する: 4店、④不明: 3店

東京地区百貨店 売上高速報 2010年08月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	103,394,574	100.0	-3.4
紳士服・洋品	6,133,957	5.9	-3.8
婦人服・洋品	18,715,271	18.1	-8.4
子供服・洋品	1,501,523	1.5	-6.4
その他衣料品	2,346,046	2.3	-16.8
衣 料 品	28,696,797	27.8	-8.1
身のまわり品	14,292,173	13.8	-3.9
化粧品	6,332,162	6.1	-1.7
美術・宝飾・貴金属	5,780,245	5.6	-10.1
その他雑貨	6,225,183	6.0	-4.4
雑 貨	18,337,590	17.7	-5.4
家 具	2,039,545	2.0	-5.5
家 電	426,649	0.4	-31.4
その他家庭用品	3,863,872	3.7	7.7
家 庭 用 品	6,330,066	6.1	-0.6
生 鮮 食 品	4,234,517	4.1	-2.3
菓 子	7,833,992	7.6	-2.9
惣 菜	5,822,076	5.6	-2.9
その他食料品	8,413,694	8.1	0.6
食 料 品	26,304,279	25.4	-1.7
食 堂 喫 茶	3,397,262	3.3	-10.1
サ ー ビ ス	2,417,486	2.3	29.1
そ の 他	3,618,921	3.5	29.5

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商 品 券	5,089,341 千円	52.2
従 業 員 数	20,954 人	0.0
店 舗 面 積	930,453 m ²	-1.8

営 業 日 数	31.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、6か月ぶりに全品目がマイナスとなった。しかし、5品目の中で雑貨が先月より改善する動きとなった。また、その他家庭用品とその他食料品が2か月連続のプラスとなり、その他雑貨、家具、惣菜が先月より改善した。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-3.4	—	30か月連続マイナス
紳士服・洋品	-3.8	-0.2	2か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-8.4	-1.6	25か月連続マイナス
子供服・洋品	-6.4	-0.1	3か月連続マイナス
その他衣料品	-16.8	-0.4	28か月連続マイナス
衣料品	-8.1	-2.4	25か月連続マイナス
身のまわり品	-3.9	-0.5	29か月連続マイナス
化粧品	-1.7	-0.1	21か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-10.1	-0.6	3か月連続マイナス*
その他雑貨	-4.4	-0.3	27か月連続マイナス*
雑貨	-5.4	-1.0	28か月連続マイナス
家具	-5.5	-0.1	3か月連続マイナス
家電	-31.4	-0.2	3か月ぶりマイナス
その他家庭用品	7.7	0.3	2か月連続プラス
家庭用品	-0.6	0.0	6か月ぶりマイナス
生鮮食品	-2.3	-0.1	2か月ぶりマイナス*
菓子	-2.9	-0.2	4か月連続マイナス*
惣菜	-2.9	-0.2	29か月連続マイナス*
その他食料品	0.6	0.0	2か月連続プラス*
食料品	-1.7	-0.4	23か月連続マイナス
食堂喫茶	-10.1	-0.4	22か月連続マイナス
サービス	29.1	0.5	5か月連続プラス
その他	29.5	0.8	5か月連続プラス
商品券	52.2	1.6	13か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・佐藤・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>